

初修外国語の現状と課題¹⁾

最上 英明 (大学教育開発センター)

現状分析

初修外国語の授業は、平成6年度より卒業要件単位数が大幅に減少した。教育学部総合科学課程、法学部、経済学部ではそれまでの8単位が4単位となった。それにより、1年間だけ履修すれば卒業できるようになったのである。農学部はそれまで4単位の履修が卒業要件だったが、自由科目となった。平成10年度に創設された工学部は、当初は4単位が卒業要件だったが、平成15年度より自由選択となった。平成16年度より医学部の授業も幸町キャンパスで行われるようになったが、4単位が卒業要件である。なお医学部は平成17年度までは初修外国語はドイツ語しか履修できなかったが、平成18年度よりドイツ語以外の言語も履修できるようになっている。また近年、香川大学が韓国の大学とも交流協定を結ぶようになってきたことから、平成19年度より韓国語も初修外国語の授業に加わるようになってきている。

初修外国語を必修とする学部でも卒業要件は4単位だけであるが、学部での演習で当該の外国語の読解が前提とされる場合は、2年次以降も中級の授業を履修する必要がある。また交流協定を結んでいる海外の大学に交換留学を希望する場合も同様である。この場合、平成11年度までは、英語と初修外国語を合わせて12単位までが卒業単位として認められていたので、初修外国語の授業を最大8単位履修することも可能であった。ところが平成12年度以降は外国語の単位は10単位までしか認められなくなり、英語と初修外国語のどちらか一方を6単位、他方を4単位履修することが標準となり、初修外国語の授業も卒業要件の外国語としては、最大で6単位しかとれないようになってきている。そのため、明らかに学生の語学力の低下が認められる。経済学部の地域社会システム学科の3年次以降の学生を対象とする演習で、初修外国語の授業も担当する教員が開講するものでは、当該の外国語の語学力を前提とするものもあるが、平成12年度入学以降の学生では当該言語の論文を読みこなすこともかなり困難になってきている。また、ドイツ語、フランス語、中国語などの検定試験でも、中級レベル以上の合格者数が減ってきている。なお、卒業要件として6単位以上とはなっているが、全体の必修単位数をこなすだけで精一杯なので、せいぜい6単位（ほとんどの学生は4単位）程度しか履修しないのが現状である。そのため、学生の到達目標が低くなり、語学力の低下という問題が生じるようになったのである。「上級外国語」の授業が英語では新設されたが、8単位以上の履修を前提としていた初修外国語では休講状態である。

初修外国語を必修としない学部でも、履修単位の上限が設定されていることにより、学習意欲のある学生でも、前期しか受講しないケースが増えている。工学部や農学部のクラスでは、後期の受講者

1) 本稿の執筆にあたっては、高木文夫（経済学部）、高橋明郎（経済学部）の両教授から貴重な示唆をいただいた。この場を借りて、お礼申し上げたい。

数が前期の受講者数の半以下になることが、ここ数年続いている。初修外国語の授業は、少なくとも1年を通して受講することが、必要最低限の文法事項を学習するだけでも必要であり、このような事態は極めて残念なことである。香川大学も国際化をキーワードにして、海外の多くの大学と交流協定を結んでいるが、上限単位の設定により、意欲があっても外国語の授業を受講できない学生が増えたのは大問題である。諸外国の大学での外国語の授業のように、外国語の単位は、その他の科目とは別枠で扱うべきであろう。外国語の授業に関しては、上限単位数とは無関係に受講できるようになれば、真の国際化は難しいであろう。

今年度の取組み

外国語の学習には、やはり学生のモチベーションを高めることが重要である。平成14年度よりドイツ語の現地での語学研修がスタートし、その後も毎年、続いている。平成17年度には中国語の台湾での語学研修も始まった。こうした語学研修も順調に軌道に乗ってきたことから、今年度（平成18年度）より「特別講義：海外研修」という経済学部の授業として単位化（2単位）されることになった。もちろんこの研修授業は全学部の学生が対象であり、今後、香川大学の国際化のための一助となることが期待される。

その他の問題点

医学部医学科を除く理工系の学部では、初修外国語が必修から外されたが、2点で問題がある。

- 1) 多くの学生にとって英語以外の外国語に触れる機会が奪われている。必修に戻す必要はないが、代替措置を考えるべきである。
- 2) 理工系の学部でも英語圏以外に交流協定大学を持っている。交流の進展を考えるならば、相手大学の国の公用語に対して敬意を払う（相手国の言語に触れる機会を作る）ことは重要である。

今後の提言

すでに触れたように、海外への留学を視野に入れて勉強する意欲ある学生を育てるためにも、外国語の履修単位は柔軟に認められることが望ましい。まずは、6単位を越えて履修する学生にメリットを与える制度が必要である。現在は休講中の「上級外国語」の授業も、人文社会系の学生にとっては十分に意義があるので、履修したらメリットがあるような制度を作るべきである。また、単位に上限を設定することにより外国語の授業が受けられない学生を増やすことは、大学自らが学生の首を絞めることに等しいと言える。外国語の授業を単位制限から外すなどの措置を講じるなどして、香川大学の一層の国際化を図っていただきたい。また外国語は履修したことがなければいつでも初心者であるので、上級生、特に大学院生にも履修できる機会を与えるべきであろう（これは院生用の授業を開講するというわけではない）。